

北町に『きりえ館』オープン！

平成26年度に修理・修景工事を行った加納家の「木楽庵（きらくあん）」において、岩本正秀さんの『きりえ館』がオープンしました。展示作品は、湯浅の町並みをはじめ、大自然や干支をモチーフにしたものなど、素晴らしい切り絵の数々が展示されています。皆さんぜひお越しください。

- 開館時間：午前10時～午後4時
- 休館日：不定休



文化庁文化財調査官による現地指導

今年度から新たに黒坂貴裕文化財調査官が湯浅伝建地区の担当に就任されています。

現地指導は、12月15日（月）と16日（火）に行われました。昨年度に修理・修景した8件および今年度に事業を実施した5件、また、来年度以降の要望物件について、実際に現地で完成・進捗状況を確認し、修理方法について町担当者が指導を受けました。



現地指導を終え、黒坂調査官からは「湯浅は住民の熱意が強く感じられる。この調子で進めていってほしい」と講評されました。



【黒坂調査官】

お知らせ

ひな人形展開催

好評につき、今年も下記のとおり開催します。皆さんぜひお越しください！

- 期間：2月12日（木）～3月3日（火）
- 場所：甚風呂、北町ふれあいギャラリー、他伝建地区内各所
- 主催：湯浅伝建地区保存協議会

※展示場所はピンクの“のぼり”が目印です！

1月26日（月）は『文化財防火デー』です。各家庭でも防火・防災対策に努め、貴重な文化財である町並みを守りましょう！

湯浅伝建地区保存協議会

まちなみ瓦版に皆様のご要望などを掲載していきたいと思っております。ご意見・ご要望などございましたら、保存協議会委員まで連絡をお願いします。

■ホームページ <http://www.eonet.ne.jp/~denken-yuasa>

編集委員

- 楠山 吉雄
- 半邊 宗五
- 妻木 禎子
- 道津 節子
- 齋藤 春太郎

まちなみ瓦版

- 平成26年1月5日
- 第25号（新年号）
- 発行：湯浅伝建地区保存協議会
- 発行責任者：木下 智之



新年のごあいさつ



新年あけましておめでとうございます。

昨年は、「甚風呂の指定管理」や「ひな人形展」、「五月人形展」が始まり、新たな一歩を踏み出した一年となりました。

「甚風呂の指定管理」では、岩本正秀さんの「切り絵展」を開催し、入館者の方々にたいへん好評を博し、入館者数も昨年までに比べて倍増しました。マスコミ等の取材も多くなる中、スタッフの対応が非常に良いと、お褒めの言葉も多くいただいております。また、「湯札募金」につきましても、予想を上回る募金をいただき、感謝申し上げます。

「ひな人形展」や「五月人形展」では、皆様から寄贈・寄付いただいたものを展示し、来訪者にもたいへん好評で、湯浅伝建地区の新たな行事として継続していきたいと考えております。

しかし、まだまだ課題が多いのも現実です。一つ一つ皆様のお知恵を拝借しながら、丁寧に課題を解決して行きたいと思っております。

今年も、重要伝統的建造物群保存地区選定10周年の前年となる、大事な一年です。

10周年記念事業の準備の年として、皆様方にご検討いただくことも多くなると思いますので、よろしくお願い申し上げます。



湯浅伝建地区保存協議会
会長 木下 智之

タイの町並み保存団体が湯浅へ来訪

タイで町並み保存の活動をしているNGO団体「Arun in Siam(アルン イン シャム)」のメンバー3名が、和歌山大学の竹内智子参事役の案内で湯浅伝建地区を視察するため12月16日（火）に来訪されました。伝建推進室の前田室長から日本の伝建制度の説明を受け、とても感心していました。



現地視察では町並み以外にも、「せいろミュージアム」や「吊り行灯」にとっても興味をもたれ、熱心に見入っていました。

また、保存協議会 木下会長との対談では、保存協議会での取り組みや住民の意識の高さに感銘され、とても充実した様子でした。町並み保存は世界でも注目されており、私たちが取り組んでいることは素晴らしいことだと改めて感じました。

保存協議会視察研修in篠山・福住

11月19日（水）に兵庫県篠山市の篠山・福住伝建地区を視察しました。

篠山市には篠山伝建地区と福住伝建地区の2地区があり、午前は福住、午後からは篠山をそれぞれ視察しました。

福住は、平成24年に全国で102番目に選定された宿場町と農村集落が併合した地区です。

現地視察では、篠山市教育委員会 村上氏の案内のもと山や川などの大自然と茅葺トタン屋根の町並みが調和した懐かしい風景を視察しました。

福住まちなみ保存会との意見交換会では、重伝建地区選定までの取り組みや空き家対策などについて説明を受けました。「一般社団法人ノオト」が空き家を活用し、イタリアレストランや民泊施設、田舎暮らし体験施設に改修し、定住アドバイザー制度を活用するなど定住の促進に取り組んでいました。湯浅でも空き家対策は深刻な問題なので、とても意義のある意見交換会となりました。



篠山には、平成19年に訪れており、今回は以前の進捗を感じながら視察しました。篠山市教育委員会 成田氏の案内のもと伝建地区の西側にある武家町を視察と東側にある商家の町並みを視察しました。武家町は電線地中化が整備されており、間口の広い敷地に茅葺屋根の武家屋敷が建ち並んでいました。

また、篠山まちなみ保存会との意見交換会では、「重伝建地区選定10周年記念イベントの運営方法」や「伝建と観光との関わり」、「災害対策」などについて学びました。

湯浅伝建地区も平成28年で選定10周年を迎えることもあり、たいへん参考となった意見交換会でした。



～町並み視察・意見交換会を終えて～

- 木下 「一般社団法人ノオト」について調べたが、内閣府推進の団体であり空き家対策などまちおこしに関する色々な取り組みを行っている。湯浅でも活用できないか行政で検討いただきたい。
- 太田 篠山は特産品が多く、観光客を呼び込める要素があるので、イベントなども開催しやすいと感じた。湯浅も醤油、金山寺味噌に次ぐ特産品を考案してまちおこしをしてはどうかと思った。
- 半邊 福住は選定から約2年だが空き家対策など前向きな取り組みが多く、ヒントになるところが多かった。篠山はまちづくりの計画や内容がとても充実しており、住民の意識の高さが参考になった。
今日、得られたことについては各地区で検討し、保存協議会で取り組んでいきたい。
- 三橋 篠山は前回に比べて土産物屋が増えたと感じた。湯浅でも飲食店をもう少し増やせればと思う。また、篠山の武家町と商家町の交流が気になった。
- 上野貞 篠山は前回も来たが、今回は武家町をゆっくり見ることができて良かった。福住は町家を活用したイタリアレストランが印象に残っている。
- 陣座 福住の自然の風景と町家が印象的だった。
- 湊井康 今年の視察研修はどのような目的で参加しようかと考えていた。
昨年は住民の取り組みを視察し、湯浅に持ち帰り雛人形の展示を始めたり、地区行事を復活させることができた。
今年は避難経路やトイレの表示、AEDの設置などをテーマにしてみたが、篠山はまだ取り組めていなかった。湯浅は災害が起こった際に住民や観光客をどう避難させるか検討しなければいけない。
- 湊井公 福住の茅葺の町並みが印象的だった。
- 上野山 篠山まちなみ保存会の「住民の力が一番大事だ」という言葉が印象に残っている。
- 楠山 福住は空き家対策にアドバイザーを上手く活用し、地区外の人を取り込んでいる。逆に篠山はこれ以上、定住者以外の参入は望まないということから各地区でそれぞれの方針の違いを感じた。
- 上野敏 伝建地区でも選定されてから10年を迎えるところが多い。私も湯浅の選定10周年に向けて頑張りたい。
- 若狭 福住の自然に囲まれた懐かしい風景と瓦屋根がとても印象的だった。
- 竹田 初めて他の伝建地区を視察した。篠山の空き地を公園に活用した休憩場所が印象的で湯浅でも取り組める事例だと感じた。
- 道津 湯浅も空き家対策は避けては通れないので、福住の取り組みはとても参考になった。福住の町並みが印象的だった。
- 根来 篠山の祭りのしきたりなどがとても勉強になった。文化財保護審議委員の立場で住民の皆さんの取り組みを応援しています。